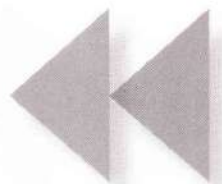


Scramble Shot



concert

バッティストーニがバイエルン州立歌劇場で《トスカ》を指揮

10月31日、バイエルン州立歌劇場でアンドレア・バッティストーニが指揮するブッチェーニ《トスカ》を聴いた。2010年リュック・ボンディ演出の再演だが、バッティストーニの音楽づくりは初演時の指揮者以上に満足感を与えた。彼自身も、ヴェルディ《椿姫》を振ったときよりオーケストラを掌握していた。

「この歌劇場管弦楽団は音楽に没頭してくれるので指揮するのは至上の幸せ」と終演後に熱く語ってくれたが、彼の棒から音が紡ぎだされるような密な部分の間に、中弛みしてしまう箇所もあるので、未だ伸びしろを感じさせる。

題名役のアニヤ・ハルテロスはこの役が求める声の色を獲得し、彼女のイタリアンレパートリーのなかで一番合っていると思える。バッティストーニと歌った体験は、今後この役をより成熟させる役に立つだろう。カヴァラドッシのステファノ・ラ・コッラは、このところ「声を響かせる職人」のような方向へ進んでおり、バッティストーニの指揮の恩恵は少なかったが、第2幕以降は観客を満足させた。スカルピアのジェリコ・ルチッチは好演したものの、声に緊迫感がない。

当歌劇場の観客はバッティストーニの健闘をそれほど讃えておらず、「別の男性歌手陣で、小さめの歌劇場だったら」と残念に思った。(中 東生)